

JD Farag 牧師 中東アップデート 2018年2月25日公開**エルサレム、核協議、パレスチナ人**

預言アップデートの前にお知らせです。特にオンラインチャーチの皆さんに対してですが、今週木曜日の午後7時に、Olive Tree Ministries のジャンさんが来てくださいます。それから、来週日曜も8時半と9時45分の両方の礼拝です。その為に、毎月第一日曜日に行っている聖餐式を、3月11日の日曜に行います。では預言アップデートを始めましょう。

今日は中東、特にイスラエルで、イスラエルに対して起こっていることに、フォーカスを戻したいと思います。さて、ここアメリカ合衆国で、様々なことが起こっています。みなさんもきっと私と同じだと思いますが、この国の中で起こっていることを見ていると、心がかき乱される思いではないですか？残念ながらアメリカ合衆国は、急速に分断していっていると言わざるを得ません。そしてそのために、アメリカの運命が決定されつつあるように見えます。と言っても、私はこの素晴らしい国に対する希望を、失ったわけではありません。私はこの国を愛しています。ただ私の希望は、この世ではなく、まもなく、私達を、この世から取り去って下さるイエス・キリストにあります。過去にも同じことを言いましたが、今日、もう一度繰り返しますと、私達クリスチャンにとっては、この世とこの世のものへの執着を手放す時だと思います。この世のものは消えゆきますから。そして私自身で言えば、神が私の人生の中で、実際、聖書預言を通してしてくださったのは、何度も言いますが、私はこの国を愛していますよ。それでも神は、この国と、この世に対する私の強い執着を緩められました。「人生は短く、キリストのために成されたことだけが残る。」という言葉があります。この意味が分かりますか？人生の終わり、もしくはその前に携挙が起こって、全てが終わったとき...パウロはこれについて、コリントの人たちに次のように書きました。

もし誰かがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。...というのは、その日は火とともに現れ、その火がその力で各人の働きの真価をためすからです。(第一コリント3:12-13)

人生は短く、私たちがキリストのためにした事だけが残ります。私は、自分の人生の終わりには、主に、「よくやった。忠実で良いしもべだ。入りなさい。」と言われたい。それから私のガラクタが燃やされるところを見なくて済むことを願います。私の"わら"や"クズ"の山は燃えるのに時間がかかりますから。いっぱいあり過ぎて。感謝なのは、それらは完全に焼き尽くされますが、ただ同時に、その同じ火によって、私がキリストの為にしたことを、清めて欲しいのです。ここ何年もの間に、主が教えてくださった事の一つに、この国の中で...ここまで話すつもりはなかったのですが、多分話す必要があるでしょう。私はこの国を愛しています。私の両親が、合法的にこの国に移民していなければ、私は生きていたかどうか分かりません。救われていたかどうか分かりません。命の恩があるのです。私の両親は、中東のイスラムを逃れてアメリカに来ました。この素晴らしい国に。だから私はこの国を愛しているのです。しかし私たちは注意しなければなりません。ここは私たちの故郷ではありませんから。ここは私たちの最終目的地ではありません。この仮の世に、根を深く下ろしすぎると、大きな過ちを犯すと思います。イエスが、マタイ6章で言われたのです。

「あなたの宝のあるところに、あなたの心がある。」(マタイ6:21) 言い換えれば、あなたの宝がここにあるなら、虫とサビで傷物になり、盗人に穴を開けて盗まれる。弱いのです。それに対して、あなたが宝を天

に積むなら、虫もサビもつかず、盗人が穴を開けて盗むこともありません。違いがあります。そして、あなたが宝をあちらに積めば、あなたの心もあちらにある。そうですね？主は、あなたの心のあるところに宝がある、とは言われませんでした。そうでなく、あなたの宝のあるところに、あなたの心もある、と言われたのです。

さて、預言アップデートに入りましょう。きっと誰かの為のメッセージだったのでしょ。

まず次の3つのカギとなる聖書預言について、皆さんがご存知であることを前提にお話しします。これまでも何度も話をしてきたものです。これらは、今日起こっていますから。

特に...順番に意味はありませんが、シリアのダマスカスの破滅に関する、**イザヤ書 17章**、ロシア、イラン率いる同盟国による、イスラエル攻撃に関する、**エゼキエル 38章**、そして、エルサレムが全世界にとって、よろめかす杯になるという、**ゼカリヤ 12章**。次になぜ私はこれらに集中するのか。それは、これらの預言の成就に向かって、私たちはこれまでになかったほどのスピードで、週毎というよりも、日毎に突き進んでいるからです。ちょっと前までは、預言アップデートの準備をするのに、それほど時間はかかりませんでした。それが今は、全てのことが迅速に起こっていて、これをまとめるのに、大げさでなく2日かかります。時間で言えば20時間以上、1回の預言アップデートですよ。だから、オンラインで誰かがコメントに、「毎日するべきだ」なんて書かれると、倒れそうになります。ええー！！！勘弁してよ！と。

あまりにも多くのことが起こっていて、1回するのに2日かかるのです。

5年前でも、2018年にこの説教台に立って、今私が話しているようなことを話すとは思いませんでした。それが今、こうしてお話している間にも、同時進行で起こっているのです。それほど速さで、全てのことが起こっています。

まずはこのHaaretzの報道からお伝えします。ネタニヤフがイランの行動に対して脅しをしました。

記事を少し引用します。この写真は皆さんご覧になりましたか？

「ネタニヤフが手にしてみせたのは、先週イスラエルの領域に侵入したため、イスラエルが撃墜したイランのドローンの一片だ。ネタニヤフは残骸を挙げながら、群衆の中に座っていたイランの外務大臣モハンマド・ジャヴァード・ザリーフに尋ねた。」

先週彼らが破壊したイランのドローンの一片を手に持ちながら、「これ見覚えありますか？見覚えがあるはずですよ。あなたのものですから。我々を試すな。」

わお！ではイランの反応はどうだったのでしょうか？

Breaking Israel Newsが、イランの反応について、彼らの言葉を引用して報道しています。今更驚きませんが、イラン高官が、「イスラエルを更地にする」と脅迫。イランの上級高官は、月曜日、アラブ語のニュース機関のインタビューで、ネタニヤフの利口でない言葉に関して、「イスラエルを更地にする」と脅迫した。「彼らが、少しでもイランに対して馬鹿な行動をとるなら、我々はテルアビブを更地にする。またネタニヤフには、逃げるチャンスは一切与えない。」記事は続けて告げています。アメリカとイスラエルの指導者達は、イランを知らず、イランの抵抗力を知らない。その為、彼らは何度も敗北に直面するのだ。今日の、アメリカとイスラエルの状況は、シオン主義政権の崩壊と、アメリカの後退に対する、彼らの恐れを表している。

私にはこの種の脅迫が、最終的に戦争に至るまで、そう長くはかからないように思えます。主の来られる時や、終わりの時のしるしについて、弟子たちが尋ねた時の、イエスの答えを思い出します。主は言われました。「飢

饑や疫病があり、戦争のことや戦争の噂を聞き、それから至るところで地震がある」と言われ、そしてこれを、強さ、頻度、激しさ共にどんどん増す、産みの苦しみに例えられました。この Arutz Sheva の分析によれば、「戦争はいつでも始まり得る。」との事です。これ良く聞いてください。イスラエル防衛軍の司令官は、月曜日のインタビューで、次のように答えた。

「おそらく我々は、イスラエルとイランの枢軸国との間の大きな戦争を、今年目撃することになるだろう。」
「2018年は、それがエスカレートする可能性がある。と言ってもどちらもそれを始めたいわけではなく、どんどん状況が悪化しているためだ。その為我々は、警戒態勢を高めている。現在シリアで起こっている事を基にした判断だ。」

シリアです！

「そこには、ロシア、イランに擁護された親アサド派の枢軸があり、最後の抵抗を排除しようとしている過程だ。」

それから彼らはこう言いました。良く聞いてください。

「状況の深刻さは、イランのイスラエルとの戦争への備えを監督している。イラン人将官が最近の声明で、強調している。」

今年の戦争への備えと言え、今年の5月に、トランプ政権は、正式にイスラエルにあるアメリカ大使館を、テルアビブからエルサレムへ移動します。それから、ここ、聞いてください。それは、イスラエル国家の70周年記念日に合わせて行われる。1948年5月14日ですよ。これに関して、色々読んでいますが、興味深いのは、その理由について、様々な憶測が飛び交っています。最初はこれをするには、長期で時間がかかると言われていたのに、唐突に、5月にこれを行う、という。今週から3月ですよ。つまり、3月、4月、5月で、何年という問題でなく、数週間の問題です。何が起きたのか？憶測が飛び交っていますが、私が思うにその理由は、聖書預言には有効期限があるからです。賞味期限とでも言いましょうか。それはどういう意味なんだ？と思っている人もいますでしょう。ではこのように考えてみてください。今日現在起こっている事柄が、今日から1年後に、まだ起こっているということは理論的に有り得ません。「鉄は熱いうちに打て」のことわざ通りです。こう考えてみてください。5年前はどうでしたか？物事が、余りにも速く進んで、速すぎるくらいです。だから、今行わないと出来なくなる。その為に、全てのことが、ものすごいスピードで起こっているのです。どうか良く聞いてください。ロシア、イランが、今日から5年後に、まだ現在のような同盟を組んでいるという筋書きは、私には想像できません。そのままでは、あまりにも、物事が高速で進みすぎています。納得しませんか？勢いがあまりにも速すぎる。止めることの出来ない勢いが加速して、ほんの2、3年のうちに、地政治全体を変えています。去年起こった事を考えてみてください。たった1年の間に、あまりにも多くのことがものすごい速さで起こりました。だから私は、この突然の、2018年5月14日、イスラエル国家再建の70周年記念が…ところで、あれは、イスラエルが、神の預言時計であることの、最も特記すべき出来事でした。私から見れば、迅速でした。1948年5月14日、聖書預言が成就したのです。特にエゼキエルです。国連での、たった1回の投票で、イスラエルが国家として誕生したのです。とても興味深いのが、イザヤの預言で、一つの国が1日で生まれようか？(イザヤ66:8)見てごらん下さい。死んでいた骨が、今や再び生きています。イスラエルが再び故国に戻りました。そしていちじくの木の実、イスラエル国の象徴が、今戻ってきているのです。イエスは言われたのです。「イスラエル国の再誕、いちじくの実が戻るのを、生きて目撃した世代が、人の子の来臨を見る世代だ。」わお！私たちはその世代ですよ！私の年齢の

方も、ですよ。ある意味ギリギリで、それでもまだ、そこに含まれていると私は思っています。そして70年後の今。面白いと思いませんか？その日に、このようなことが起こるなんて。それだけではありませんよ？

The Jerusalem Post はまた、ニッキー・ヘイリーについても報道しています。

「トランプの中東和平計画は、殆ど準備が出来ている。」彼女は、これとその問題について言及し、その一つは、アメリカが、パレスチナ国を推進する可能性だ。

この発言は、パレスチナ高官マフムード・アッバースが、国連安保理で演説した2日後になされた。その中で彼は、アメリカ以外の仲介者を見つけるように、国連に要請している。彼は世界中を駆けずり回って、アメリカ合衆国以外の、和平協議の仲介者を探しているのですよ。それが彼に都合の良いように進んでいるとは思えませんが。

Ynet News によれば、ニッキー・ヘイリーは、また次のようにも発言しています。「和平案は、“どちらにも好まれないだろう”」

良く注意して聞いてください。彼女はシカゴで発表しました。

「トランプ政権の、中東和平案の草案が完成しつつある。おそらくこれは、どちらにも憎まれる内容だろう。それが2国解決案の中心となるかどうかは、まだわからない。しかしそれは、イスラエルとパレスチナが決める問題だ。」

「トランプ政権の、1つ目の草案は”中東和平案“。これはどちらにも好まれないだろうが、完成に近づきつつあり、近い将来提示される。」

近い将来とは、何を意味しているのでしょうか？近い将来とは、どれだけ近くをいうのでしょうか？”突如“の推進は、何のためですか？なぜ、急ぐのです？「大使館を設けよう！」どうして急ぐのです？「この和平案を進めよう！」どうして急ぐのです？ああ。急ぐのは物事が余りにも速く進んでいるからですよ。預言の鉄は熱いうちに打たなければならないのです。

Ynet News は続けて、ヘイリーの言葉を紹介しています。

「大使館をエルサレムへ移動する決断に関して、パレスチナ指導者達が非常に不満を持っていることは、アメリカ合衆国も知っています。あなた方に、この決断を好んでいただく必要はありません。あなた方が、これを賞賛する必要はありません。あなた方が、受け入れる必要もありません。しかしこれだけは言っておきます。この決断は変わりません。」

と、ヘイリーは、自分の発言が終わった後退出したアッバースに告げた。ヘイリーに、「黙れ！」と言ったパレスチナのスポークスマンが居ました。「口を閉じろ！」と、アラブ語で言ったのです。それに対してヘイリーは言いました。「私は口を閉じたりしない！」「私は黙らない！」「私は口を開きますよ！」そして、彼女はそうしたのです。しかし…なぜ押すのか？特にどうして我々は、この「2国解決策」の考えに囚われているのか？これは、ゼカリヤ 12章です。全世界の、エルサレムへの執着。エルサレムの境界線を動かそう、エルサレムを分断し、エルサレムを切り刻もう、と。そこへ神が宣言されます。「もしあなたがエルサレムを分断するなら、わたしはあなたを分断する。」

前にも同じことを言いましたが、今日の話の内容から、もう一度言います。今、アメリカ合衆国は、どれほど分断しているでしょう。どうかご理解ください。「一致すれば立ち、分断すれば倒れる。」ゼカリヤ 12章で、神が言われた言葉を思います。「あなたがエルサレムを分断し、2国解決策を推進するなら、わたしがあなたを分断する。」私が心から愛するこの国、私の命の恩があるこの国が、今日のように分断するのを、私はこれまで見たことがありません。これはもしかして？お尋ねします。どうか聞いてください。もしかして、アメリ

カがこれほどに分断しているのは、アメリカがエルサレムを分断しようと考えているのが、原因ではないですか？

ところでパレスチナ人なんてものはありませんよ。皆さんそれはご存知ですね？これは作り上げられたのも、でっち上げですよ。ヤーセル・アラファト自身がエジプト人だったのです。パレスチナ人なんてものはありません。パレスチナ人の呼び名の由来である古代ペリシテ人は絶滅しています。それと、カナン人も絶滅していますよ。念のため。なぜ私がこれを言うかといえば、それは、“笑止千万”としか言いようのない、Arutz Sheyaの記事を見つけたのです。

その中で、マフムード・アッバースの発言が引用されていて、彼はこう言いました。

「パレスチナ人は、カナン人の直系の子孫だ。」主張はこうです。「“パレスチナ人”は、1917年のバルフォア宣言以前、人権に膨大な貢献をしたのだ。自身の子供たちを、偶像モラクに捧げていたカナン人は、長い間姿を消していたために、専門家達は、カナン主義の倫理を、歴史修正主義だと軽くあしらうが、アッバースは過去に、何度もこの主張をしてきた。他のアラブパレスチナ人は、自分たちはダビデ王の時代の前にエルサレムを所有していたエブス人の子孫だと主張している。アラブ人達が、エルサレムに到着したのは、西暦7世紀だというのが歴史的事実だが。」

ではなぜ私がこれを指摘しているか？あの地はイスラエルのもだからです。自称パレスチナ人のものでなく、もしくは“カナン人”のものでもない。“エブス人”のものでもなければ、他の誰のものでもない。あそこはイスラエルのも。神はイスラエルに与えられたのです。アブラハム、イサク、ヤコブの子孫です。イシュマエルではありません。エサウでもありません。アブラハム、イサク、そしてヤコブです。そしてエルサレムは…皆さんこれはご存知ですね？以前お話ししましたから。エルサレムは、彼が所有者として、その御名を置かれた町です。それを分断したいですか？そこに手を出したいですか？それを分けたいですか？

ではまとめに入ります。もう少しお付き合いください。この全ては、私達にどう関係するのか？これにどんな意味があるのか？明日の朝、目覚ましがなって、仕事に行き、また一週間が始まる。またいつもの日常が始まる。仕事に行き、家に帰って、ご飯を食べて、眠る。朝起きて、仕事に行き、家に帰って、ご飯を食べて、眠る。これを5回、もしくは6回、仕事中毒の人は、7回。ですね？

ではこれにどんな意味があるのか？それはこうです。時が近づいています。「先生、毎週それを言ってますよ！」私は今週もまた言いますよ。主が戻ってこられる時が、私たちが想像するよりも、はるかにずっと近づいています。主が、彼の花嫁のために、戻って来られる。教会の携挙が戸口まで来ています。「先生、毎週それを言ってますよ！」そうですよ。そしていずれ、それが最後になる週がやって来ます。主が来られますから。それほど近いのです。

イエスは、「私は思いがけない時に来る。」と言われました。さらに踏み込んで言わせてください。私達一人一人に、自分の生きている時を悟り、何をすべきかを知っていたイッサカル族のようになる義務があるのです。これは**第一歴代誌 12:32**です。良く聞いてください。これは**第一歴代誌 12:32**です。良く聞いてください。イッサカル族から…これが面白い事に、全イスラエルの全ての部族、全ての子孫が、列挙されているのです。それがイッサカルのところに来た時に、他の部族は何も言っていないのに、32節に来ると、イッサカル族については、興味深い説明が書かれています。何だか知りたいですか？**彼らは時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っている（第一歴代誌 12:32）**

次にローマ書 13: 11-14で、パウロはこのように言っています。「このように行いなさい…」ところで言うて良いですか？私はお伺いしているんじゃないやありませんよ？これは修辞法です。とにかく言わせてもらいます。エペソ人への手紙で、私たちは神の御言葉をただ聞くだけでなく、行う者になりなさい、と書かれています。それがここで展開されているのです。パウロが、ローマの教会に言っている事を良く聞いてください。あなた方は、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。これは皆さんが、既に現在の時を悟っていると仮定して、それを前提に書かれています。その上で、皆さんがすべきことはこれだ、と。あなた方が眠りから覚めるべき時が、もう来ています。…なぜか？ と言うのは、私たちが信じた頃よりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。夜は更けて、昼が近づきました。ですから、私たちは闇のワザを打ち捨てて、これが、私たちが、今する事です。皆さんはもう聞きました。だから神の御言葉を聞いた後、皆さんはこれをしなければなりません。光の武具を着けようではありませんか。…それから彼は、具体的に書いています。

遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねがみの生活ではなく、昼間らしい正しい生活をしようではありませんか。これは興味深いですね？ちょっとこれについて話したばかりです。なぜ神は、ねたみを憎まれるのか。それが人々に及ぼす影響の為です。不和、分断、いざこざ…そうではなく、私たちがする事はこれです。主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。（ローマ書 13: 11-14）言い換えれば、いい加減な事をしている時間はもうない。教会ごっこをしている時間はもうない。真剣になる時です。

今までに、一度も主の御名を呼び求めて、救われていない方、オンラインでこれをご覧になっている方も、今までに、一度も主の御名を呼び求めて救われていない方は、今日、お願いします。今日が救いの日です。私が牧師をさせていただいているこの教会の中にいる方に、今まで一度も主の御名を呼び求めたことが無い方がいるなら、お願いですから、今日、主の御名を呼び求めて救われてください。その方法をお伝えしますので、後2分ほどお付き合いください。

イエス・キリストの福音、イエス・キリストにおける、救いの良い知らせです。

第一コリント 15: 1-4に、パウロは次のように書いています。

兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなた方に宣べ伝えたもので、あなたが受け入れ、またそれによって立っている福音です。またもしあなたが、よく考えもしないで信じたのではないなら、私の宣べ伝えたこの福音の言葉をしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。私があなた方に最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。

これです。これが福音、良い知らせです。

キリストは、聖書の示す通りに、私たちの罪のために死なれたこと、また葬られたこと、また聖書の示すとおり、3日目によみがえられたこと。（第一コリント 15: 1-4）

これが福音です。イエス・キリストが十字架にかかり、葬られ、よみがえった。死を打ち破り、我々の全ての罪の為の死罪を、全額贖い、そして3日目に死からよみがえった。これが良い知らせです。ではそれに関して、あなたはどうしますか？それに対して、どう応えるか？それには、救いのABCで知られる、これです。



Aは、自分が罪人であり、あなたが神に対して罪を犯した為に、救い主が必要である事を、Admit/認める、もしくは Acknowledge/認識する。ローマ書3：10には、こうあります。

それは次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。」(ローマ書3：10)

ローマ書3：23には、こうあります。

全ての人は、罪を犯したので、神から栄誉を受けることが出来ず、(ローマ書3：23)

ローマ書6：23には、こうあります。

罪から来る報酬は死です。しかし神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。(ローマ書6：23)

次にB。

Bは、イエス・キリストが主であり、そして神が、彼を死からよみがえらせたこと、心で Believe/信じるのです。これは、ローマ書10：3-10に書かれている事です。

なぜなら…あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。…(ローマ書10：9-10)

そして最後にCは、主の御名を、Call/呼び求める。もしくはあなたの口で、Confess/告白する。これもまた、ローマ書10：9-10で、次のように書かれています。

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。(ローマ書10：9-10)

最後に契約を封印するのが、ローマ書10：13です。

主の御名を呼び求めるものは、だれでも救われる。(ローマ書10：13)

ご起立ください。祈りましょう。皆さんの忍耐に感謝します。

天のお父様。聖書預言に感謝します。あなたの御言葉の中で、これから起こることを、それが起こる前に知らせてくださいました。それが起こり始めた時に、信者たちは体をまっすぐにして、頭を上げます。私たちの贖いが、近づいていますから。主よ。また未信者たちも、それが起こり始めるのを見たら、あなたが御言葉の中で、これから起こることを告げてくださいましたから、彼らも信じることが出来るのです。主よ。ですから、あなたの御名を一度も呼び求めた事のない人が、あなたに対して犯した罪を認識し、あなたが主であり、あなたが死からよみがえった事を、心で信じ、口で告白しますように。主よ。今日、彼らがあなたに降参しますように。あなたを信頼し、あなたを呼び求めますように。イエスの御名によって、祈ります。主よ。最後に、マラナタ！！主イエス。早く来てください。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Fuyuko Chishima